



# 大阪大学皮膚科学教室



## スタッフ

7代主任教授 講師 金田眞理  
片山一朗 講師 室田浩之

(2013年4月1日現在)

## 歴代教授

初代 櫻根孝之進  
2代 佐谷有吉  
3代 谷村忠保  
4代 藤浪得二  
5代 佐野榮春  
6代 吉川邦彦

## 教室の歴史

大阪大学皮膚科学教室は1903年(明治36年)に櫻根孝之進先生が初代教授として「皮膚科」の名称で開設されました。1926年佐谷有吉教授の就任後、皮膚泌尿器科となり、1941年、谷村忠保教授が皮膚科学講座と泌尿器科を分担、1956年、藤浪得二教授時代に皮膚科学講座として分離しました。1974年、佐野榮春教授が就任され、強皮症の治療や結合組織研究など新たな研究領域が拓かれ、全国に多くの教授を輩出されました。1985年に就任された吉川邦彦教授は活性型ビタミンD<sub>3</sub>の乾癬への有効性を世界に先駆け報告され、乾癬の患者会の設立など日本の乾癬研究に大きな貢献を果たされました。2004年、現在の片山一朗が着任し、脈々と続く大阪大学皮膚科学教室の歴史を引き継ぎ、免疫・アレルギーをキーワードとした難治性皮膚疾患の創薬研究に取り組んでいます。

## 教室の特色

大阪大学皮膚科学教室には医学部の開祖、緒方洪庵の適塾の流れをくみ発展してきた実学の精神が生きて受け継がれています。日常診療で患者さんから得られる疑問点を解決する、現時点の医療知識、技術、医療機器で治せないような病態の治療法を創出するための研究を行い、患者さんに還元していく姿勢をモットーに日夜、診療、教育、研究に取り組んでいます。医学部研究棟10階にある皮膚科学教室の医局からは万博記念公園と大阪市が一望できます。景色の中でひととき目立つ万博記念公園のシンボル、「太陽の塔」は透徹した、しかし慈愛に満ちた大きな眼で未来を見守っています。そんな「太陽の塔」とともに、ここ千里の丘から世界に情報を発信し、教室員が一丸となって新しい時代の皮膚科学を創りだすことを目標としています。



## おもな業績

### 大阪大学皮膚科ホームページから世界へ

西田健樹技官がその立ち上げから更新まで一手に引き受け、日本そして世界に情報を発信しています。最近では女性医師支援、研修プログラム、医局員コラム、患者会への案内などを新たに掲載しております。ホームページを見て患者さんが受診されることも多く、教室の研究に興味を持ち研究を手伝う学生、他学部からの修士入学希望者も出てくるようになり、教室の大きな業績となっています。ホームページ効果もあり、出身大学の多様さは全国でも屈指で、ママさん大学院生や修士の方、海外からの留学生など年齢、国籍所属も異なる方が、厳しいけれども楽しい研究生活を過ごされています。



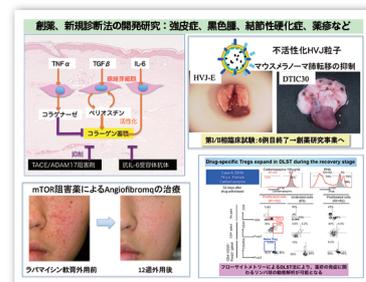
### 皮膚の恒常性維持機能のあらたな探索



皮膚は精緻な恒常性維持機構を持ち、その破綻が多様な皮膚疾患の原因や悪化因子となります。表皮細胞は生体の最外層でのストレス侵襲に対する非常に精緻なセンサー機能を持ち、恒常性維持のための生体応答が進行します。その中で、新たな皮膚の機能として表皮細胞が皮膚という末梢組織で自律的にコルチゾールを活性化する機能を有していることを明らかにしました。また発汗現象を3次元画像でイメージングすることで発汗に影響を与える因子の解析を進行させています。最近、暖まると皮膚が痒くなる機序として、アーテミンとよばれる神経成長因子が関与することを報告しました。

### 創薬、新規診断法の開発研究

抗IL-6受容体抗体により強皮症の硬化の改善作用が見られ、臨床治験が開始されています。悪性黒色腫に対するHVJエンベロープを用いたFirst in human studyが進行中で、2012年から厚生労働省の創薬事業に採択され、明日の治療法の開発研究が始まりました。結節性硬化症は多彩な皮膚症状、肺、腎、中枢神経などの腫瘍が見られますが、m-TOR阻害薬が症状の改善に効果的である事を見出し、創薬開発に関する大型プロジェクトがスタートしています。ヒトの薬剤アレルギーに關与するリンパ球の動態解析の良い方法は過去になく、新たにCFSEとBrDUの取り込みを組み合わせたFACS法での解析が進んでいます。



## 大学データ

所在地 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-2  
電話番号 06-6879-3031(医局)  
FAX番号 06-6879-3039(医局)  
医局メールアドレス info-derma@derma.med.osaka-u.ac.jp  
医局長 種村 篤